

「たたら製鉄」の価値を再考 たたらシンポジウム開催



中世から数百年に及ぶ

日本固有の鉄づくり「たたら製鉄」

「たたら製鉄」の様々な価値を再認識し、これからの保全活動等について考える「たたらシンポジウム2011」が二月二十日、くにびきメッセ国際会議場（松江市）で開催されました。

奥出雲町、雲南市、安来市で構成する「鉄の道文化圏推進協議会」が主催した当シンポジウムには、会場を埋め尽くす約五百人の来場者が訪れました。

長の井上町長から「このシンポジウムを通じて、日本のものづくりの原点である『たたら製鉄』を多くの人に伝えていきたい」とあいさつがありました。

シンポジウムでは、国立科学博物館理工学研究所の鈴木一義グループ長、東京大学総合研究博物館の宮本英昭准教授による基調講演、圏域内での活動事例発表、有識者によるパネルディスカッションが行われました。

「たたらはふるさとの自慢」

奥出雲町の小学生が
たたら体験学習の発表

奥出雲町からは、横田地域各小学校の六年生四人が、昨年十一月に行った「たたら体験学習」について事例発表を行いました。

発表を行った安達あすかさん（鳥上小）、福岡桃華さん（横田小）、寺江夏希さん（八川小）、渋谷康仁さん（馬木小）は、時間と手間をかけたものづくり（「たたら」を通じて忍耐力と協力することの大切さを感じたと発表しました。

そして「『たたら』はふるさとの自慢です。奥出雲町民として次の世代の人たちに伝えていきたい」と感想を述べ、全員で協力して行った貴重な体験を、充実感溢れる言葉でまとめました。

これに対し、日刀保たたらの木原明村下は「実体験をもとにした臨場感と雰囲気のある発表だった」と評されました。

発表を終えた四人の小学生は「緊張したけど、たくさんの人に伝えられるように、練習

発表の様子（左から渋谷さん、安達さん、福岡さん、寺井さん）



習のときよりも上手に発表することができました」と感想を話していました。

パネルディスカッション

たたら製鉄の「価値」と可能性を探る

鈴木グループ長ほか五名で行われたパネルディスカッションでは、たたら製鉄が自然環境と共生していること、地域社会で「活かした製鉄技術」であることに言及。

その上で「たたらは、石見銀山遺跡に劣らない価値を持つ」と、世界遺産登録を提言するなど、産業・文化など多



世界遺産登録にも言及（パネルディスカッションの様子）

方面での価値と可能性について探りました。

また、小学生の事例発表にも触れ、「教育的・学習的にも大きな価値がある」とした上で、最後に「自分たちがたたらを大切に、誇りに思うことからすべてが始まる。次世代へつなぐことが大切」と鈴木グループ長が討論をまとめました。

今回のシンポジウムを通じて、参加者は「たたら製鉄」の様々な価値について、認識を深めていました。

女子ホッケー日本代表 山本由佳理選手 町内中学生に技術指導



丁寧に指導する山本選手（右）

横田高校出身で、2008年北京五輪以降、女子ホッケー日本代表として活躍する山本由佳理選手などによる、ホッケーの技術指導会が二月十一日、横田高校体育館で行われました。

この指導会は、山本選手が所属する実業団チーム・ソニーHCブラビアレディースの社会貢献活動の一環として全国各地で行われており、奥出雲町では初めての開催となりました。

この日指導に訪れたのは、山本選手と、同チームの三浦恵子選手、前田春菜選手、須賀三希子選手の四名。仁多・横田の中学校女子ホッケー部員三十五名が参加し、パス練習、ミニゲームなどを通して、トップレベルで活躍する憧れの選手から、約三時間にわたり基本技術を学びました。

指導中には、山本選手自らシュートを打って見せる場面もあり、スピードと迫力ある動きに、中学生は感動するとともに、少しでも学び取ろうと真剣に動きを見つめ説明を聞いていました。

指導を受けた横田中女子ホッケー部キャプテンの荒川千尋さん（二年生）は「山本選手たちのようなトップレベルの選手に教えてもらい嬉しかったし、今後の励みになる」と目を輝かせて話していました。

また、山本選手は「今日教えたことを吸収し、試合で積極的に実践してほしい。そして、しっかりと目標を決めて、何事にも諦めずにトライしてほしい」と話されました。

この指導会は、参加した中学生にとって、単に技術を学ぶだけでなく、トップレベル選手の迫力や勢いを肌で感じた貴重な経験となりました。

スキー技術の巧みさを競う

全日本スキー技術選手権大会 出場者を激励



大会への抱負を話す景山さん（右）

三月七日から十三日にかけて長野県・白馬八方尾根スキー場で開催された「第四十八回全日本スキー技術選手権大会」の出場者激励式が、三月二日、役場仁多庁舎で行われました。

出場する景山寛樹さん（八川）は、小学生の頃からスキーを学び、この大会に出場するのは今回で四回目です。

式では、井上町長から「この大会はスキーテクニクの大

チャンピオンを決める大会。万全のコンディションで大会に臨んでほしい」とあいさつされ、激励金が贈呈されました。

これに対し、景山さんは「大会に向けて練習してきた三井野原スキー場関係者の方々への感謝の気持ちを忘れず、全力で競技に挑みたい」と決意を述べました。

大会では、全国の強豪を相手に果敢な滑りで健闘しまし

仁多ライオンズクラブ

奥出雲病院へAEDを寄贈

二月二十三日、仁多ライオンズクラブから奥出雲病院へAED（自動体外式除細動器）二台が寄贈されました。

これは、同クラブの「光と愛を届ける事業」の一環として行われたもので、平成十九年の寄贈以来二回目となります。

この日は、仁多ライオンズクラブの景山孝志会長、白根裕文計画財務委員長が病院を

訪れ、春日正己病院長に目録とAEDが手渡されました。

春日院長は「有効かつ大切に使用していただきます」とお礼を述べられました。

二台のAEDは、体に貼り付けるパッドと本体が分離するワイヤレス式の最新型で、病院一階外来と四階に設置されます。これにより、全フロアへのAED設置が完了することになりました。



最新型のAED2台を寄贈